

資料 1 トライアングルについて

私たちの信仰が地に足のついたより確かなものとなるためには、「現実を表現する」「深い信仰（神との交わり）」「共同体との交わり」の三つの要素がそろうことが大切です。次の資料は、そのうちどれかが欠けた（弱い）場合そのグループはどうなるかを考えた一つの例です。

(1) 現実を直視すること、信仰の深みはますますだが、共同体への帰属意識が欠けている場合

1. 精神的迷いが生じたとき、弱い
2. 自分と神だけの関係になってしまう
3. あるところまで行き着くと、それ以上の進歩がない
4. 個人プレーとか役員任せになってしまう
5. 教会が一つになれず、バラバラになってしまう。
6. 一人よがり
7. 自分が所属するグループが最上と思われる
8. 他者を寄せ付けない
9. 共に歩む感覚や、兄弟姉妹の喜びがない
10. 日曜信者（ミサだけですぐ帰る）
11. 維持費（会費）を納める必要を感じない
12. 役員になりたがらない
13. 教会は「二の次」である
14. じぶんの信仰だけで、教会のことを避ける
15. 自分の信仰だけで協力性に欠ける
16. 共同体に馴染めず、帰属意識がない
17. 共同体の足を引っ張る人がいる
18. 独善的になりがち
19. 人の批判（干渉）
20. 孤立する
21. 人を差別する
22. 一致協力できない
23. 教会の維持が困難
24. プラス面を挙げれば、自由で小回りが効く（一人ですることによって）
25. 視野が狭くなる（現実離れする可能性がある）
26. 一瞬の喜びがあるが、長くは続かない
27. 神父信仰

(2) 現実を直視すること、共同体への帰属意識はまずまずだが、信仰の深みが欠けている場合

1. ともに歩む姿勢に欠け、隣の人の中にキリストを見ようとなしない
2. 世間の常識(価値観)に流される
3. 信者同士の対立が起きやすい
4. 仲よしグループ的存在になりやすい
5. 価値観の違いによる分裂が起きる
6. 教会のサロン化
7. 活動が利害にとらわれがちになる
8. 集まりの中にキリストがいない
9. 行事中心の教会(行事・イベントに集中、固執する)
10. ミサが義務的になる
11. 長いものに巻かれる・寄らば大樹の陰
12. 祈りが雑になる(形式的)、言語を重んじる
13. 結果優先主義(能力主義)
14. ひとりひとりのタレントを認めあえない(無視)
15. 社会的地位が教会の中でも適用
16. 立場の弱い人を大切にしない⇒教会では、ほっと安心して過ごせない。
17. 聖職者中心になるか、聖職者を無視する
18. 教会の集いの参加者が少なくなる
19. み言葉を無視
20. 全体が見えない
21. 批判的になる、仲間に厳しくなる
22. 自分達の力を過信する。自己中心的になる
23. 祈らなくなる。祈る必要を感じない
24. 活動中心となる
25. お互いの信頼感がなくなる
26. 経済的、時間的余裕がある時は、活気がある
27. 問題が起こったとき、共同体として乗り越えられない
28. 形式を重んじる余り、本質を見失う
29. ぐちっぽくなる
30. 冷たい共同体になる
31. 十字架を通して復活へ向かえない
(共同体として、十字架を担えない)

- (3) 信仰の深みと、共同体への帰属意識はますますだが、現実を直視することに欠けている場合
1. 社会的に閉鎖的になっていく
 2. 具体的行動がない
 3. 信仰と生活が遊離していく
 4. 世間に対して無関心
 5. 方向性や課題が失われる
 6. 地域とのコミュニケーションの欠落
 7. 前向きで生き生きしたものがなくなっていく
 8. 社会での出来事が話題にならない
 9. 神父の絶対的世界になりやすい
 10. ある意味で熱心で活発的に見えるが、実は何かが抜けている
 32. 古い信者タイプで、刷新を受け入れない
(刷新の必要を認めない)
 33. ピント外れ(生活と信仰の基礎)
 34. 一致よりも派閥を作る
 35. 教会外の人を一段低く見る
 36. 教会内の差別
 37. 「私の教会」の意識
(外国人や未洗者を受け入れない)
 38. 労働の軽視
 39. 地域社会(家族からも)から浮いている
 40. 表面的、形式的(仲良しクラブ)
 41. 独善的、偽善的
 42. 活気が無くよどんでいる
 43. 日常生活の中で、生活の糧とならない
 44. マインドコントロールされていても気がつかない

大阪教区生涯育成コース
『NICE-2 後の信仰を生きる』
『NICE-2 からのメッセージより』